

# 宇宙天気予報のためのGEONET利用早期TEC導出

## Prompt Derivation of TEC from GEONET Data for Space Weather Forecast

# 三宅 互[1]

# Wataru Miyake[1]

[1] 情報通信研究機構

[1] NICT

NICT（情報通信機構）では、 $f_o f_2$ の変動など、国内各電波観測所のイオノグラムデータを準リアルタイムで取得・処理し（1）日々の宇宙天気予報へ利用している。この他の重要な電離圏パラメータとしてTECがある。NICTでは国土地理院提供のGEONETデータから、TECを導出する手法を確立し（2）電離圏嵐の研究（3）などに活用している。GEONETのデータは、2 - 3日後に1日分が提供されるため、電離圏の現況を把握するには不向きであった。しかし、国土地理院のHPによると、この4月から1日に数回ほどに分けて6時間分のデータを公開することが報じられている。例えば、6 - 12時JSTのデータが14時過ぎには入手可能となる。これが実現されれば、GEONETデータを、NICTでの日々の宇宙天気予報業務における電離圏の現況把握に利用することが考えられる。TEC導出で問題となる計器バイアスについては、入手済みのデータからあらかじめ導出しておくことで、TEC導出を簡素化・高速化することができる。この手法の概略と実績について報告する。

(1) <http://wdc.nict.go.jp/ISDJ/index.html>

(2) G. Ma and T. Maruyama, Ann. Geophys., 21, 2088, 2003.

(3) T. Maruyama et al., J. Geophys. Res., 109, A10302, 2004.